

山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1 大山上池・下池をバックに、「ほとりあ」周辺の自然環境の豊かさについて語る上山さん。特に、池の対岸にある高館山は院生時代からお気に入りの場所。

2 上山さんが立ち上げた「環境教育工房LinX」が、あさひむら観光協会と共催している事業「森の遊えんち♪」でのひとコマ。親子でゆったり自然を感じる時間。

3 「ほとりあ」では、里山の保全や自然環境教育、里山利活用推進などに取り組んでいる。その一環として、湿地周辺では外来動物の駆除活動も行っている。

庄内の豊かな森林文化に魅せられて、その素晴らしさを「守り」「人に伝える」を仕事に。

上山剛司 鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」学芸員・環境教育工房LinX

今年4月にオープンした鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」は、市街地から近く、300m足らずの低山ながらブナ林があり、「森林浴の森百選」にも選ばれている高館山の麓、ラムサール条約登録湿地の大山上池・下池のほとりに建っている。その学芸員を務める上山剛司さんは、鹿児島県出身。北国へのあこがれと、動物好きが高じて「北海道に行けばいつかムツゴロウさんに会えるかもしれない」との思いから北海道の大学に進学し、卒業研究のテーマが縁で、本学大学院農学研究科で学ぶことになる。院生時代の2年間は、研究室と研究フィールドとしていた高館山と自宅を行ったり来たりの日々。さらに、野生動物サークルを作って鶴岡の人と自然に存分に触れあった。修了

後は、環境省対馬野生生物保護センターに勤務することになり、一時はふるさとに近い長崎県へ。しかし、奥山だけでなく人里にも多くのブナ林を有し、山菜が食文化を彩る、そんな鶴岡の豊かな森林資源に魅せられ、「チャンスがあればまた鶴岡に戻りたい」との思いがあった。それが2年後に実現し、院生時代に築いた人々とのつながりが縁で、再び鶴岡に帰ってくるようになったのだ。

あさひむら観光協会と森林環境教育事業に携わりながら、自らも環境教育工房LinXを立ち上げ、森林環境教育プログラム「森の遊えんち♪」の共催、未就学児とその保護者を対象とした「森のようちえん♪」や「森カフェ」を主催するなど、将来を担う子どもたちへの自然体験活動を中心に人と自然、そ

して人と人をつなぐ活動を続けている。そんな中、高館山や大山上池・下池、その周辺一体を自然学習のフィールドとする庄内自然博物館構想の学習や情報、交流の拠点である「ほとりあ」のオープンに伴い、上山さんはその学芸員を任されることになった。「ほとりあ」は子どもからお年寄りまで、広く市民に自然とふれあう機会を提供する施設。上山さんは、催事の企画から展示業務、保全事業、公園の維持管理、会議や事務仕事まで、多忙な日々を送っている。仕事が軌道に乗ってきたら、環境教育工房LinXの活動にも再び力を入れていきたいと意欲を見せる。人と自然をつなぐやりがいのある仕事、後輩たちが後に続いてくれればと期待を寄せている。

交流の成果